

2025年12月8日

企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」



展示構成、関連イベントのご案内

すみだ北斎美術館（東京・墨田区）では2025年12月11日(木)～2026年2月23日(月・祝)まで企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」を開催いたします。一点物の肉筆画に対し、浮世絵版画は量産され、販売される商品でした。江戸を訪れた人が故郷への土産として買って帰る江戸土産のひとつとして広く流通しました。現在、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」をはじめとする浮世絵版画が世界中で知られているのも、量産された作品が点在し、多くの人々が目にする機会があったから、といえるかもしれません。浮世絵版画には、情報を伝えるメディアという側面もありました。浮世絵版画からは、江戸に生きる人々の身近な日常を垣間みることができます。本展では浮世絵版画に焦点を当て、その歴史や技法、テーマなどをひもときます。浮世絵版画の幅広い魅力をお楽しみください。

本展の見どころ

① 浮世絵版画の進化と技術革新

墨一色の《墨摺絵》から多色摺の《錦絵》へ。「見当」の発明など、江戸の職人たちが生み出した摺りの技術や創意を紹介します。

② 絵師・彫師・摺師 分業が生んだ匠の美

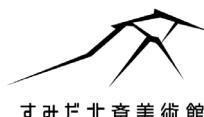
版元を中心に、絵師・彫師・摺師の協働によって完成する浮世絵版画。繊細な彫りや摺りの工夫など、分業体制が生んだ美の極致を取り上げます。

③ 江戸に生きる人々の暮らしと時代を映す「江戸のメディア」

浮世絵版画は、庶民の生活や風俗を映すメディアでもありました。役者絵や名所絵、団扇や広告など、多様な作品を通して江戸の文化と時代の変化がみえてきます。

報道関係の
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ
中原 / 長谷川 / 金本 / 加藤
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992
Email hm-pr@hokusai-museum.jp



展示構成と主な出品作品

1章 日本の木版画 その始まり

世界的に有名な葛飾北斎の「富嶽三十六景」シリーズは、複数の色を版木で摺り重ねた木版画です。もともとは墨一色の墨摺絵だった浮世絵版画が多色摺木版画＝錦絵になるまでには、長い歴史があります。まず、江戸時代より前の時代の木版画を1-1でみてみましょう。



作者未詳「阿弥陀如来坐像印仏」
すみだ北斎美術館蔵（前期）

1-1 人々の祈りを伝えます

日本の木版技術の始まりは、飛鳥時代（593-710）に中国から伝來した仏教の普及に深く関係しています。平安時代（794-1192）になると、仏教の經典を大量に作るために、木版での摺刷が行われるようになりました。

1-2 見当の発明 モノクロからフルカラーへ

江戸時代に入り、延宝（1673-81）頃には墨一色の《墨摺絵》が登場し、寛保（1741-44）頃には、版木に《見当》という目印をつけることで、数色を重ねて摺ることが可能となりました。紅や緑、黄色など少ない色数でしたが、大きな進歩です。

2章 浮世絵版画をひもとく

明和2年（1765）、好事家の間で《大小》と呼ばれる絵暦のデザインを競う交換会が流行し、多色摺木版画の技術は飛躍的に向上します。多くの色を重ねた浮世絵版画は、錦の布のように豪華ということから「錦絵」と呼ばれるようになりました。浮世絵版画は、版元・絵師・彫師・摺師の四者が共同で制作したものです。本章では、版を重ねる工程や紙の大きさ、彫り・摺りの技法に注目し、その魅力を紹介します。

2-1 色を分けて摺る 浮世絵版画の作り方

多くの色を重ねて摺る浮世絵版画の制作過程をみていきます。輪郭線を彫った主版と、使われている色ごとに分けた色版があります。



歌川国芳「達男氣性競 つりかね弥左衛門」
主版
国立歴史民俗博物館蔵（通期）



歌川国芳「達男氣性競 つりかね弥左衛門」
色版 うす紅
国立歴史民俗博物館蔵（後期）



歌川国芳「達男氣性競 つりかね弥左衛門」
色版 あい
国立歴史民俗博物館蔵（前期）



歌川国芳「達男氣性競 つりかね弥左衛門」
株式会社原書房蔵（通期）

2-2 紙の無駄を出さない 判型のバリエーション

判型とは、作品の出来上がりのサイズを指します。展示室には大小さまざまな、縦長・横長の作品が並びます。これは、大きな紙を半分、さらに半分と切って使うためです。浮世絵版画は版元が企画・販売した商品であり、紙を無駄にしない工夫が重ねられました。その判型を活かした構図は、絵師の腕の見せどころです。ここでは多様な判型を紹介します。

2-3 浮世絵版画の表現技法 細部に宿る職人技

浮世絵版画には、木版画だからこそ可能になった彫りや摺りの技術がみられます。職人たちが腕を競った技の数々が、浮世絵版画の魅力になっています。



葛飾北斎「巡礼」
すみだ北斎美術館蔵（後期）



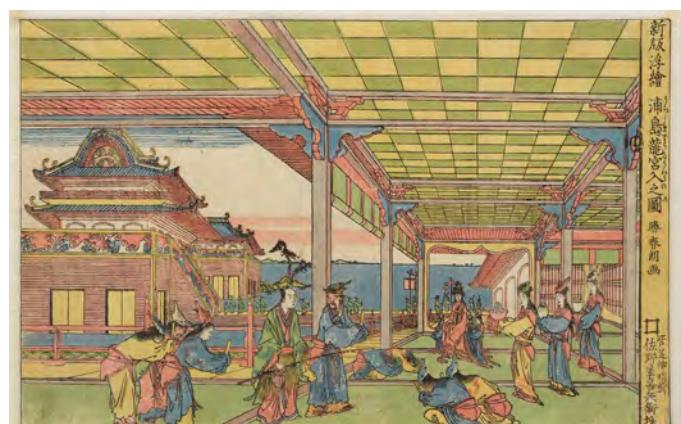
葛飾北斎「雪月花 隅田」
すみだ北斎美術館蔵（前期）



葛飾北斎「雪月花 隅田」
すみだ北斎美術館蔵（前期）



葛飾北斎「あづま与五郎の残雪」「伊達与作せきの小万夕照」
すみだ北斎美術館蔵（後期）



葛飾北斎「新版浮繪浦島竜宮入之圖」
すみだ北斎美術館蔵（後期）

3章 生活の中に息づく浮世絵版画

浮世絵版画は情報を発信するメディアでもありました。江戸の人々の身近に存在していた浮世絵版画は、日用品として用いるものにも使われていました。

3-1 なんでも描く！ テーマいろいろ江戸の日常

浮世絵は「浮世」=現世を描いた絵です。庶民の身の回りにある、ありとあらゆるものが画題となっています。江戸っ子たちの娯楽であつた歌舞伎、推しの役者の顔を大きく描いた大首絵や、地方から来た旅人たちが土産に持ち帰る名所絵など画題は尽きません。



葛飾北斎「富嶽三十六景 相州梅沢左」
すみだ北斎美術館蔵（後期）



葛飾北斎「芥子」
すみだ北斎美術館蔵（前期）

3-2 こんなものも浮世絵版画です 身近すぎる日常使いの印刷物

木版画は印刷技術のひとつであり、庶民が使う日用品も浮世絵師が絵を描き、木版画で作られました。団扇や商品の宣伝チラシ、お菓子の袋なども浮世絵版画で作られています。玩具や、著名人の訃報を知らせる作品などもあります。



葛飾北斎「東叡山御膳海苔所」
すみだ北斎美術館蔵（前期）



葛飾北斎「観機閣」
すみだ北斎美術館蔵（通期）※半期で同タイトルの作品に展示替えをします

4章 時代によって変わる浮世絵版画

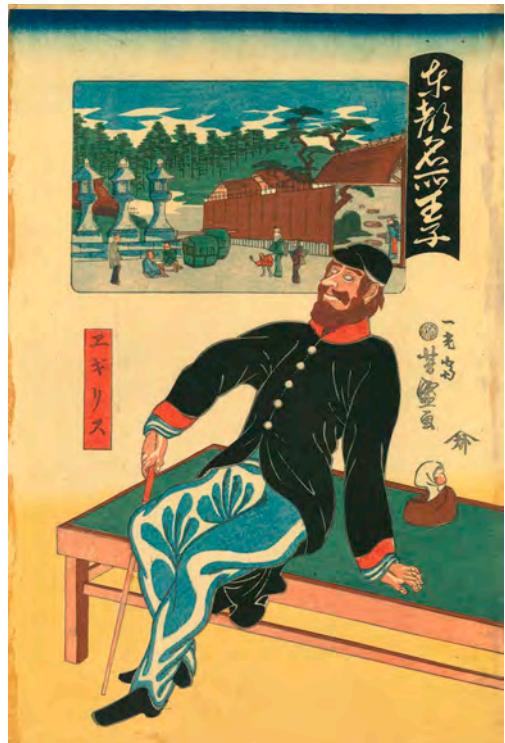
庶民に向けて様々な情報を発信してきた浮世絵版画は、明治時代に入り近代化とともに、その役割を新しいメディアである写真や新聞へと徐々に譲り渡します。一方で、失われていく江戸の面影や廃れていく木版画技術を惜しむ声もあり、江戸回顧の気運が高まりました。

4-1 浮世絵版画にみる情報 日本の「今」を伝えます

明治時代に入り、新しい文物や価値観が流れ込んでいます。浮世絵版画にも変わりゆく町並みや時代を捉えた作品が登場します。



豊原国周「開花人情鏡 写真」
すみだ北斎美術館蔵（前期）



歌川芳盛「東都名所 王子 エギリス」
株式会社原書房蔵（後期）

4-2 浮世絵版画の新たな展開 マスメディアからアートへ

報道の役割も果たしていた浮世絵版画は、事実をありのままに写すことや速報性という面で、写真や新聞にとって代わられます。一方で、写真では表現できないような味わいを活かした木版画の表現技法が登場し、浮世絵版画の新時代が幕を開けます。



小林清親「新橋ステンション」
株式会社原書房蔵（後期）



吉田博「日本南アルプス集 雨後のハケ岳 (駒ヶ岳石室より)」
すみだ北斎美術館蔵（前期）

企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」開催概要

展覧会名 企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」

会期 2025年12月11日（木）～2026年2月23日（月・祝）

※前後期で一部展示替えを実施

前期：2025年12月11日（木）～2026年1月18日（日）

後期：2026年1月21日（水）～2月23日（月・祝）

休館日 毎週月曜日

開館：2026年1月3日（土）、1月12日（月・祝）、2月23日（月・祝）

休館：2025年12月29日（月）～2026年1月2日（金）、1月13日（火）

※ただし2026年1月20日（火）は展示替えのため当企画展は休室

会場 すみだ北斎美術館 3階企画展示室

開館時間 9:30～17:30（入館は17:00まで）

主催 墨田区・すみだ北斎美術館

観覧料 一般1,000円、高校生・大学生700円、65歳以上700円

中学生300円、障がい者300円、小学生以下無料

ホームページ <https://hokusai-museum.jp/encyclopedia/>



●観覧日当日に限り、4階『北斎を学ぶ部屋』、常設展プラスもご覧になります。

●一般以外の料金対象者は、年齢等の確認できるものをお持ちください。

●障害者手帳をご提示の方は、付添の方1名まで障がい者料金でご覧いただけます。

●前売券及び当日観覧券・オンラインチケットの発売日・販売方法や、各種割引の詳細、団体でのご来館（事前予約優先制）、最新のイベント情報については、すみだ北斎美術館の公式ホームページをご覧ください。

【関連イベント】

ワークショップ「季節のハガキを摺ってみよう」

日時 2025年12月13日（土）14:00～16:00（開場13:30）

講師 高橋工房六代目・高橋由貴子氏

会場 MARUGEN100（講座室）

定員 30名（当日募集、開場時間から整理券配布）

対象 小学生以上（小学3年生以下は、保護者同伴にてお願いします）

料金 無料（ただし企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）

スライドトーク

日時 2026年1月17日（土）、2月7日（土）各日13:30～14:00（開場13:00）、15:00～15:30（開場14:30）

講師 本展担当学芸員

会場 MARUGEN100（講座室）

定員 40名（各回開場時間から整理券配布）

料金 無料（ただし企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）

講演会「錦絵の売られ方—いくらで、どのように」

日時 2026年1月24日（土）14:00～15:30（開場13:30）

講師 大久保純一（すみだ北斎美術館館長）

会場 MARUGEN100（講座室）

定員 40名（事前申込制・先着順）※詳細は公式ホームページを通じてお知らせします）

料金 無料（ただし企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）

●最新の状況は、公式ホームページにてご確認ください。

企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」

展覧会広報用 作品画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

« 画像貸出に関して注意事項 »

- ・ 画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵元・展示期間）の表記が必須となります。
- ・ 画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・ 画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・ 画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
- ・ 展示作品は都合により変更することがあります。

ご希望の番号にチェックをお願いいたします。

- 企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」チラシ表面
- 企画展「北斎でひもとく！浮世絵版画大百科」横長バナー（1366px×500px）
1. 葛飾北斎「雪月花 隅田」すみだ北斎美術館蔵（前期）
2. 葛飾北斎「あづま与五郎の残雪」「伊達与作せきの小万夕照」すみだ北斎美術館蔵（後期）
3. 葛飾北斎「新版浮絵浦島竜宮入之図」すみだ北斎美術館蔵（後期）
4. 葛飾北斎「覗機関」すみだ北斎美術館蔵（通期）※半期で同タイトルの作品に展示替えをします
5. 葛飾北斎「東叡山御用 御膳海苔所」すみだ北斎美術館蔵（前期）
6. 豊原国周「開花人情鏡 写真」すみだ北斎美術館蔵（前期）

貴社名			
貴媒体名			
部署名 (役職名)			
ご芳名			
ご連絡先 TEL	FAX	E-mail	
ご掲載・放送予定	月	日	※こちらは必ずご記入いただきますようお願いいたします。
備考	※ご要望などございましたらご記入下さい。		



報道関係の
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ
中原 / 長谷川 / 金本 / 加藤
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992
Email hm-pr@hokusai-museum.jp

